2022 年度支援展覧会選考結果

2022 年 12 月 7 日（水）、島敦彦（国立国際美術館館長）、中塚宏行（美術評論家）、保坂健二朗（滋賀県立美術館ディレクター）、原田平作（大阪大学名誉教授、幣財団代表理事）、中谷伸生（関西大学名誉教授、幣財団理事）を選考委員として、2023 年度展覧会支援選考委員会が開かれました。まず、委員の互選により、中塚宏行委員が委員長に選ばれ、次いで、A 部門に応募のあった 4 件と B 部門に応募のあった 5 件の展覧会について慎重に審議した結果、A 部門について 2 件、B 部門について 3 件、計 5 件の展覧会に対して、支援を行うことが決定されました。

選評（応募順）

委員長　中塚宏行

公募の周知期間が短く、応募件数は少なかったのですが、応募された展覧会は「視ること」の自明性に批判的であろうとする意欲的なものばかりでした。ただ、展覧会のあり方（場所や人の役割）は実に多様です。本委員会は、その多様性を尊重することとしました。

A 部門（各地の美術館・博物館及びそれらに相当する施設が企画する展覧会の部門）

■展覧会名：「まなざしの外れ」、会場：アトリエみつしま Sawa-Tadori、会期：2023 年 10 月 1 日～10 月 29 日、代表：光島貴之、出品作家：片山達貴、サトウアヤコ、中屋敷智生、松井利夫、光島貴之
【支援金額】30 万円
【選評】全盲の美術家・光島貴之を中心に、晴眼・色弱などの作家たちが表現する「見えない／見えにくい」世界を見つめる体験を展覧会として企画する独創性が評価された。

■展覧会名：「久門剛史展」（仮題）、会場：京都市立芸術大学ギャラリー＠KCUA、会期：2023 年 11 月 3 日～2024 年 2 月 12 日、代表：藤田瑞穂、出品作家：久門剛史
【支援金額】70 万円
【選評】日本の現代美術で実績ある中堅作家による、音・光・彫刻・絵画を組み合わせた演劇性のある表現活動に独自のプログラミングを設定する「協働ロボット」を加えたインスタレーションの挑戦的な試みの斬新さが評価された。

B 部門（新進アーティスト／クリエーターが企画するギャラリー等での展覧会）

■展覧会名：「海のない波」、会場：東京都美術館ギャラリーB、会期：2023 年 6 月 10 日～2023 年 7 月 2 日、代表：グループ自己と他舎、出品作家：片山達貴、チン・ユウジュウ、成田舞、堀井ヒロツグ、キュレーター：藤本流位

【支援金額】30 万円
【選評】写真・映像作品によって社会とのつながりについて問題意識を共有しようとする企画で、過去の実績と、自己と他者との「揺らぎ」をテーマとする独創性が評価された。

■展覧会名：「吉濱翔個展」（タイトル未定）、会場：＋1art、会期：2023 年 12 月頃、代表：吉濱翔、出品作家：吉濱翔
【支援金額】10 万円
【選評】生まれ育った沖縄の文化を参照／応用し、即興的なサウンドインスタレーションやパフォーマンスを行う表現活動は、興味深い試みで、意義あるものと評価された。

■展覧会名：「原田裕規個展」（タイトル未定）、会場：山口県の日本ハワイ移民資料館など（予定）、会期：2023 年 6 月～7 月頃、代表：原田裕規、出品作家：原田裕規、キュレーター：塚本麻莉
【支援金額】30 万円
【選評】ハワイでのフィールドワークを踏まえたトランスナショナルな混成文化をデジタル化して表現するユニークな企画は、今日的な問題に果敢に取り組む試みとして高い評価を得た。